



三生医薬がニトリなどと共同開発した宇宙での睡眠の質を上げるアイマスク＝富士宮市の三生医薬大岩事務所

宇宙で快眠 アイマスク開発 香りとぬくもりでリラクセス

富士・三生医薬など 技術生かす ISSへ運搬 飛行士使用

サプリメント受託製造などの三生医薬(富士市、今村朗社長)は19日、同社の製剤技術を生かし、宇宙での睡眠課題を改善するアイマスクを家具大手「ニトリ」(札幌市)などと共同開発したと発表した。三生医薬が開発した香りのオイルを閉じ込めたカプセルと、肌に触れた部分が温かくなる素材を組み合わせ、宇宙飛行士の快適な眠りを支える。早ければ今夏にも、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の日本人クルーが使用する。アイマスクの鼻に触れる部分にポケットがあり、その中にカプセルを入れて香りを染しめる。直径約4ミリのカプセルはフェルトに包まれ、使用直前に指でつぶすと森林浴を想起させる香りが広がる。オイルは、香りの空間デザインを

手がける「イリス トウキョウ」(東京)が開発。約1日持続する。体が発散する水分を熱に変えるニトリの吸湿発熱素材「N-ウォーム」を使い、香りとぬくもりでリラクセス効果を生む。

開発は、宇宙と地上の暮らしの質向上を目的とした宇宙航空研究開発機構(JAXA)と民間企業による共創プロジェクトの一環。宇宙飛行士が直面する睡眠やその他の課題に着目した。より精密な安全性が求められる宇宙空間で使えるよう試行錯誤し、約3年かけて開発に至った。

アイマスクは、21日に打ち上げ予定の物資運搬ロボットで宇宙に届ける。三生医薬のプロジェクトリーダー奈良末沙希さん(32)は「今後は地上での商品化を検討する。飛行機や新幹線の長距離移動や災害時の避難所生活など、さまざまな場面での活用につなげた」と期待する。

(富士支局・鈴木志穂)